

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	児童一人ひとりを大切に、互いに認め合える温かい人間関係を育む実践に全校で取り組む。
目標（評価規準）		児童一人ひとりを大切に、認め合える人間関係の育成に全職員で努める。
重点に係る現状 設定理由		児童一人ひとりの個性を十分理解し、全職員で全児童の指導に努めたい。互いが認め合い、思い合える学級指導の工夫・改善を図りたい。

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	「一人ひとりを大切に、個に応じた指導をしている」「いじめ、不登校の未然防止、早期対応を適切に行っている」「職員の主体性、創造性のもと、協働性に富んだ教育活動を行っている」のアンケート項目が、概ねよい評価である。
各アンケート等の結果	保護者アンケート「子どもたちは、学校へ行くのを楽しそうにしている」「学校は、子どもたち一人ひとりを大切に、個に応じた指導に努めている」、児童アンケート「学校生活が楽しい、旭小が好き」および関連の項目が、概ねよい評価である。
自己評価結果 (見解と改善方策)	昨年度までの道徳の授業研究「自分のよさを大切に、相手のよさを尊重できる子」を基盤に、今年度は総合・生活科を通して「すすんでかわり、高めあう子」をテーマに、友達と協力し、互いに高めあう学習活動の工夫に取り組んできた。 児童指導の課題等も全職員で確認し、指導の方向を全体で共有することができた。SC、巡回相談、および外部関係機関と連携し、児童理解を深め、適切な対応を検討したり、実施したりすることができた。 不登校やいじめ対応は、各クラスや児童の実態共有を大切に、職員全員で適切な対応策の共通理解を図り、保護者との連携を大切にするよう努めた。 学校が小規模化し経験の浅い職員の比率が高まる中、児童の健全な人間関係を育むためには、児童指導部や教育相談コーディネーターなどを今まで以上に活用し、組織的な取り組みを重視する必要がある。今後も、学級の特性や個々の資質を細かにつかみ、思いやりあふれる学年・学級経営を目指して取り組んでいきたい。
学校関係者評価結果	新型コロナの影響で学校に足を運ぶ機会は少なかったが、スクールガード活動等を通して、子どもたちが明るく元気に学校生活を送っている様子をうかがうことができた。地域の大人も積極的に子どもたちに声をかけて、見守っていききたい。
最終改善方策	外部機関との連携も活用し、子どもや家庭に関わる課題や解決方法を探る。小規模校の特性や強みを生かし、全職員で全校の子どもたちを見ていく姿勢を大切に、一人ひとりが活躍できる教育活動を基本に、学級・学校づくりを進めていく。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	基礎学力を定着させ、確かな学力の向上をめざす。
目標（評価規準）		学習習慣の定着に努め、自ら学ぶ姿勢を身につける。
重点に係る現状 設定理由		教職員間の基礎学力について共通理解を図り、校内研究の推進、教科指導の工夫・改善をめざしたい。子どもたちの学習習慣をつけさせるため、家庭学習の工夫を図りたい。

評価資料	評価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	「学校研究を推進し、指導の工夫・改善、指導力の向上に取り組んでいる」「各教科の基礎・基本を明確にした学習指導を行っている」の項目においては、概ね目標が達成できていると評価している。「楽しく、分かりやすい、魅力ある授業づくりを行っている」からは、自分たちの指導について、少し厳しく評価している様子が見られる。
各アンケート等の結果	保護者アンケート「学校は、授業・個別指導を工夫して、学習内容の定着に努力している」「学校は、家庭学習を工夫して、学習習慣の確立に努力している」、児童アンケート「授業は楽しい」「授業の内容がわかる」の項目において、概ね良好という結果である。
自己評価結果 （見解と改善方策）	新型コロナウイルス対策で、学習活動に制限が設けられる中、児童の学力を低下させないための工夫をしながら授業を進めてきた。アンケートでは目標達成はできているものの、高学年になるにつれ授業理解に関して低い評価をする子どもが多く見られ、教職員アンケートでも、今後、さらにわかる授業・楽しい授業の実現を目指し、指導の工夫・改善を図って行くことの必要性を感じていることが見えてくる。 今年度、数年ぶりに導入することができた「特別支援教育推進事業（個別指導）」も、着実に子どもたちの学力を底上げしている。 家庭学習については、今後も連携を密にして取り組んでいきたい。 今年度から取り組んでいる「総合的な学習の時間」「生活科」を通じた校内研究でも、授業改善に取り組んでいる。教職員が相互に刺激し合い、研鑽を積み、より良い学習活動・わかりやすく楽しい授業づくりに取り組み、職員の指導力のさらなる向上に努めたい。
学校関係者評価結果	基礎・基本の学力の積み上げを大切に、家庭と連携し、一層の努力をお願いしたい。
最終改善方策	IT機器の活用など授業方法の改善を図り、計画的な授業計画、内容の充実、指導力の向上を目指し、教職員の共通理解のもとに取り組む。また、家庭学習の習慣化に向けて、家庭と連携して継続的に取り組む。

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	学校・家庭・地域の連携を図る。
目標（評価規準）	学校・家庭・地域の連携した教育活動を展開する。	
重点に係る現状 設定理由	保護者、地域の方々の協力を得ながら、連携したより良い学校環境づくりに努めたい。 学校の情報を積極的に発信し、学校理解を深めたい。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	新型コロナウイルス感染症拡大防止による学校行事への家庭の方々の参加が少しずつ緩和され、保護者が学校での子どもたちの様子を目にする機会が増えた。「保護者・地域等に教育活動の情報提供を積極的に行っている」の項目は、学校便り・学級通信等で家庭や地域に情報発信したり、家庭や地域とのコミュニケーションを大切にするよう心がけたりする中で、概ね良い評価となっている。
各アンケート等の結果	保護者アンケート「学校便り、学級通信等により教育活動や児童の様子を知ることができる」「学校は、児童・保護者からの相談や連絡に適切に対応している」「学校は、保護者や地域の方々との連携ができている」の項目において、達成基準を満たす結果を得た。
自己評価結果 （見解と改善方策）	新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を図りつつ、児童の学校での様子を家庭や保護者の方々が参観する機会を増やしてきた。ただ、今まで地域・家庭との連携で継続してきた様々な行事で開催できないものがあったことは残念である。コロナ禍を通して工夫したことを活かしつつ、行事の取り組み方の見直しの必要性も考えられるようになった。15年続く地域をあげての見守り活動は、この間も継続され、児童の安心・安全を守りつつ児童と地域の方々とのコミュニケーションが保たれている。学校もこのスクールガードの方との連携を今まで以上に大切にしてきた。 小規模校として学校力を高めるためには、保護者・地域の理解・協力を得ることが不可欠と考える。そのためにも、常に感謝の気持ちを大切に、家庭・地域とのよりよい関係を築いていきたい。 今後、地域の方々の参加を増やすことができるようにしていきたい。
学校関係者評価結果	安全指導を含め、地域全体で児童の心身の成長を見守りたい。学校のために保護者・地域も連携して協力体制をとっていきたい。
最終改善方策	日常的に情報発信を行い、行事、授業参観、学校公開等を活用し、地域・保護者・学校との連携をより深め、「地域の学校」づくりを目指す。